

新年度スタートといったら、やっぱりコレ、航空祭HBと自衛隊特集だっ!

JWings

[Jウイング] 戦闘機が楽しくなる
ミリタリーマガジン

6 JUNE 2012
No.166

自衛隊がわかる!

別冊付録 航空祭ウォッチング
ハンドブック2012-2013
これを持って、航空祭へゴー!!



陸海空自衛隊
100の装備と
「戦い方」を知る!

2012



EA-18G グラウラー部隊、日本到着
連載 [月刊F-35]
テーマは「導入見直し!？」



アメリカ Photos and Text by Phodocu

フロリダ半島の南に細長く浮かぶサンゴ礁の島々、フロリダ・キーズ列島。その島のひとつボカ・チカ・キー島に、「*」形の3本滑走路を持つアメリ



手前の112番機は茶色系塗装、奥の105番機は灰色系+水色塗装。VFA-111の機体塗装は、この2つに茶色系+緑色塗装、灰色系塗装を加えた全部で4パターンがあるようだ

カ軍キーウエスト海軍基地がある。ここで活動する海軍の予備役部隊VFC-111 (Fighter Composite Squadron: 戦闘機複合飛行隊) “サンダウナーズ”は、空対空戦闘訓練を主任務とする仮想敵飛行隊だ。ノースロップF-5タイガーIIを飛ばし、幅広いタイプの敵機の戦術機動をシミュレートして、新米飛行士だけでなくベテランパイロットをも相手に本質的な空中戦訓練を実施している。

空対空戦闘訓練といえば、海軍にはネバダ州のファロン海軍基地に本

拠地を置くNSAWC (Navy Strike & Air Warfare Center: 海軍打撃・航空作戦センター) があるが、かねてより訓練の需要が増え、活動の一部を他地域に移動させる必要が生じていた。そこで2006年1月に仮想敵飛行隊VFC-13 “セインツ”が、空対空戦闘訓練に的を絞った恒久分遣隊 (F-5×12機) をキーウエストに派遣し、大西洋および太平洋艦隊のF/A-18C/Dホーネット、F/A-18E/Fスーパーホーネット機種転換部隊の空対空作戦訓練を担わせた。しかし1個分遣隊には荷が

重いということで、同年11月にフルスケールの1個飛行隊 (F-5×18機) として再編成したのがVFC-111だ。

VFC-111のルーツであるVF-11は第二次大戦の太平洋戦線で日本機と死闘を繰り広げた戦闘機部隊で、部隊のニックネームは“サンダウナーズ” (太陽を沈める者) のまま、F-5の尾翼にもしっかり旭日を描いているが、現在の仮想敵はもちろん星のマークのほうである。



星よりも旭日マーキングが目立つVFA-111の列線。VFA-111では単座型F-5N 17機、複座型F-5F 1機の計18機を運用している。アメリカ海軍・海兵隊で使用しているF-5Nは、スイスから購入した飛行時間の半分も飛んでいない44機の中古F-5Eを改修したものだ



F-5N 104番機。機首だけでなく、センターライン下の機外燃料タンクにもシャークティースを描いているのがお茶目だ

VFC-111のパイロットは全員で36名。別の飛行隊で任務に就いていた、海軍予備役の兵士たちからなる。F/A-18のいずれかのタイプで高い飛行経験を積んだ者ばかりが揃っている

旭日の仮想敵飛行隊



タキサーアウトするVFA-111のF-5N 116番機 (b/n 761532)。機首に緑のある色数字を描くのは、もちろん仮想敵に似せているから。左主翼端に搭載しているのは、空対空戦闘訓練の機動を計測するキュービックP5テレメトリ・ポッド。右主翼端にAIM-9の訓練弾を搭載することもある



カリブ海の青い空に旭日の尾翼が鮮やかに映える。取材で確認できた中では、尾翼全体に旭日マーキングを施していたのはこの101番機だけだった。尾翼全面の旭日とシャークティースの組み合わせは、F-4やF-14時代のVF-111から受け継がれるもの